

 Viêt Nam	学校名: 八王子市立鎌水小学校	● 実践教科等: 総合的な学習の時間
	氏名: 迎里 健也	● 時間数 : 10時間
	[担当教科:] 全科	● 対象生徒 : 小学校4年生
		● 対象人数 : 105人

1 単元名 未来のためにできること

2 単元の目標

ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度(国立教育政策研究所が例として示したもの)

- ・ベトナムの人々や文化、社会を通して、世界への興味・関心をもつ。(進んで参加する態度)
- ・ベトナムと日本の共通点や相違点に気付く。(多面的・総合的に捉える力)
- ・世界各国が抱える諸問題や、世界の共通の目標があることを知り、未来のために自分たちができるとはしないか考える。(他者と協力する態度)

3 単元の指導について

(1)教材観

これまでの中央教育審議会答申では、「国際理解教育の充実」が挙げられている。そこには、「国際化が進展する中で、広い視野とともに、異文化に対する理解や、異なる文化を持つ人々と共に協調して生きていく態度などを育成することは、子供たちにとって極めて重要なことである。」と記述されている。また、諸外国が抱える問題は、政治や経済、環境や社会などが複雑に絡み合っており、地球規模で統合的に解決していく必要があると考える。そのためにも、世界の諸問題を、他人事と思わず、「地球上に生きる一人」としての自覚をもち、自分ごととして捉え、解決に向かうことは重要である。

そこで本単元では、約200ある世界の国々の一つとして、ベトナムを例に挙げ、異なる文化や習慣があることに気付かせ、世界の国々への興味関心を高めていきたい。また、ベトナムと日本を比較することで、違いだけでなく、共通点・類似点もあることや、各国それぞれのよさがあることに気付かせたい。

さらには、ベトナムや世界各国の諸問題に気付くことや、持続可能な開発目標 SDGs(世界共通の目標)があることを知り、未来のためにできることはないかを考えさせていきたい。

(2)児童観

本学年の多くの児童は、外国に行ったことがないものの、芸能やスポーツなどを通して、諸外国の存在を知っている。第1時の導入では、知っている国を2分間で書き出させたが、30近くの国の名前を書いた児童もいた。また、第3学年から始まった外国語活動の授業を通して、外国の言語や文化に触れ、諸外国に興味をもっている児童も多にいる。

児童は1学期の社会科「わたしたちのくらしと水」や、「ごみのしまつと再利用」の学習を通して、水やごみといった、身近な問題を捉え、よりよく生活していくための方法を考えた。また、総合的な学習の時間「広げようやさしい町」では、自分たちの住む町には、高齢者や体の不自由な人など、様々な人々がいることを知り、誰もが住みやすい町について考えてきた。

本単元では、これらの既習を想起させながら学習を進めることで、身近な問題から世界の問題へ、住みやすい町から住みやすい地球へと、児童の視野を広げていきたい。そして、広い視野をもつことで、異文化や多様性を理解し、それらを尊重する心と態度を育みたい。

(3)指導観

第1時では、世界の国々や言語について知り、世界についての興味関心を高めるきっかけとする。また、絵本『世界がもし100人の村だったら』を参考に、「世界がもし34人の4年2組だったら」という題で、世界の現状を考える。「34人のうち、○人は住む家があるけど○人は・・・」などと世界の人口を学級の人数に置き換えて考えることで、より実感しやすいと考えた。

第2時では、約200ある世界の国々から、一例としてベトナムを紹介する。クイズ形式でベトナムの概

要や文化を知り、諸外国への興味関心をさらに深めていく。

第3時では、前時で取り上げたベトナムと、自分たちの住んでいる日本を比較する。ベトナムの国旗を裏返すとベトナムの写真、日本の国旗を裏返すと日本の写真になっているカードを用意する。グループになり、神経衰弱のように、同じ場所や同じ物のカードをセットにしていく。ゲーム感覚でベトナムと日本を比較しながら、両国には相違点もあるが、共通点や類似点もあることに気付かせたい。

第4時には、ベトナムの写真から、ベトナムの課題を考える。課題を捉えた後には、課題の解決方法を考えることで、他国の諸問題への理解を深めたい。

第5時では、ベトナムから世界各国に目を向け、世界各国の課題を考える。ポリタンクを背負ったエチオピアの女の子と、ランドセルを背負った日本の女の子の写真を比較し、日本と諸外国への違いに気付いていく。また、日本では不自由なく勉強したり、食事をしたり、安全な水を飲めたりするが、諸外国では、それらのことが当たり前ではない場合もあることを感じてもらいたい。さらには、世界各国には、課題があるだけでなく、その課題を解決するために、持続可能な開発目標 SDGs があることを紹介する。

第6時以降は、前時に紹介した SDGs を用いて、興味のある目標について調べ学習を行う。単元の最後には、これまでの学習をリーフレットにまとめ、未来のためにできることを考えていく予定である。リーフレットにすることで、これまでの学習を効果的に振り返り、未来のためにできることとして考えた自分の意見が、形として残るよさがあると思う。

4 評価規準

観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 世界をよりよい未来にしていくために、自分にできることがあることを理解している。 SDGsに関連する情報を適切に収集し、整理・分析し、リーフレットにまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活と世界各国を比較し、世界各国が抱える課題を捉えるとともに、SDGsと関連付けて、未来のためにできることについて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ベトナムや世界各国に興味をもち、すすんで学習に取り組むとともに、自分の考えた未来のためにできることを、今後実践していこうと意識を高める。
評価方法	学習の様子 ワークシート リーフレット 発表内容	学習の様子 ワークシート リーフレット 発表内容	学習の様子 ワークシート

5 単元の構成

時限	次	学習のねらい	授業内容
1	①世界の課題を知ろう。	世界について考えよう ～世界がもし34人の4年2組だったら～ ・世界の国々に目を向け、現状を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 世界の知っている国の名前を書き出す。 世界には200近くの国があることを知る。 アクティビティ【世界の言葉でこんにちは】 語カードに書かれているあいさつを、声に出して言いながら、同じあいさつをしている人を探す。世界には多様な言語があることを知る。 アクティビティ【世界がもし4年2組だったら】 (世界の人口を4年2組の児童数35人に置き換えて、現状を理解する。「世界がもし34人の4年2組だったら、○人は大人で、○人は子供で、○人はお年寄りです。」「○人は栄養が十分ではなく、○人は死にそうなほどです。」など)
2		ベトナムってどんな国？ ・ベトナムの概要について知り、興味を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ベトナムの写真を見て、先生が夏休みに行った国を予想する。 正式な国名を知り、場所を予想する。 ベトナムの場所を地図帳で調べる。 面積、人口、首都、国土などを知る。 ベトナムのあいさつ・自己紹介など、簡単な言葉を知る。

3	②世界の課題を調べよう。	ベトナムと日本の同じところとちがうところ ・ベトナムと日本の共通点・相違点に気付く。	・アクティビティ【写真カード神経衰弱】 ベトナムと日本の写真を見比べて、同じテーマ(衣服・食事・住居・自然など)のものをセットにする。 ・フォトランゲージ (神経衰弱で使用した写真カードをもとに、気付いたことを話し合う。) ・ベトナムと日本の共通点と相違点に気づき、グループごとにシートにまとめる。
4		ベトナムのなやみはなんだろう ・ベトナムの抱える課題に気付く。	・フォトランゲージ (ベトナムの課題に関連する写真から、気付いたことを話し合う。) ・ベトナムの抱えている課題に気づき、シートにまとめる。(交通渋滞・大気汚染・水質汚濁・ごみ問題など)
5		世界の国々のなやみは何だろう ・世界中に課題があること、世界には共通の目標があることを知る。	・アクティビティ【文字が読めないということ】 (謎の文字で水・薬・毒と書かれた3本のペットボトルをもとに、文字が読めないことの不便さや、世界には文字が読めない人たちがたくさんいることを体感する。) ・フォトランゲージ (ポリタンクを背負ったエチオピアの女の子と、ランドセルを背負った日本の女の子の写真を見比べて、気付いたことを話し合う。) ・持続可能な開発目標 SDGs があることを知る。
6 7		世界の目標 SDGs を調べよう ・SDGs に興味を持ち、それぞれの目標の取り組みや課題などを知る。	・17の目標から、興味のある目標1つについて調べる。 ・調べた内容(現状・取り組み・課題など)をまとめる。
8 9	③未来のためにできることを考えよう。	未来のためにできることを考えよう ・SDGs と関連付けて、自分たちにできることはないか考える。	・SDGs の目標に関連付けて、自分たちにできることを考える。 ・これまでの学習を振り返り、個人でリーフレットにまとめる。 ①ベトナムについて ②ベトナムの課題 ③調べた SDGs の目標 ④目標に対して未来のためにできること
10	④未来のためにできることを伝え合おう。	未来のためにできることを伝え合おう ・自分の考えたできることを伝え合う。	・リーフレットのまとめ、発表練習を行う。 ・これまでの学習で学んだことや、未来のためにできることを伝え合う。

6 授業事例の紹介

小単元名【ベトナムのなやみは何だろう】

(1) 指導案

(ア)実施日時 10月16日(水)第3限

(イ)実施会場 4年2組教室

(ウ)本時の目標

フォトランゲージを通してベトナムの抱える課題に気づき、課題を解決するための方法を考える。

(エ)指導のポイント

- ・様々な視点からの写真を用意することで、課題に気づきやすくする。
- ・付箋を使用することで、自分の考えを出しやすく、分類しやすくする。
- ・課題解決の方法を導き出す手立てとして、身近な課題や、その解決方法を想起させる。

(オ) 本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
導入 5分	前時の学習の確認をする。	○ベトナムと日本の違いや同じところを思い出す。	全体	○ベトナムと日本には、違う点や同じ点があったことを想起させる。	
展開 35分	フォトランゲージを通して、ベトナムの課題に気付く。	○ベトナムの写真を見て、感じたことや気付いたことを付箋に書く。	個人	○ベトナムの課題を捉えやすい写真を提示する。	ベトナムの写真を見て、気付いたことを書いている。 (発言、付箋) ベトナムの課題の解決方法を考え、話し合っている。 (発言、学習の様子、模造紙)
		○付箋に書いたことを、グループで共有する。	グループ	○気付いたことや、感じたことを共有しやすいように、付箋を使用する。	
		○付箋を分類しながら、ベトナムの課題は何かを話し合う。	グループ	○課題に気付けないグループには、日本との生活の違いを考えるよう助言する	
		○課題を解決するための、方法を考え話し合う。	グループ		
		○模造紙にまとめる。	グループ		
まとめ 5分	気付いた課題を全体共有する。 振り返りを行う。	○グループごとに、気付いた課題や、課題を解決する方法を発表し、クラス全体で共有する。	全体	○グループごとにまとめたシートを黒板に掲示し、視覚化する。	ベトナムの課題に対して、自分の考えを書くことができる。 (ワークシート)
		○ベトナムの課題を知り、感じたことや考えたことをまとめる。	個人		

(2) 授業の振り返り

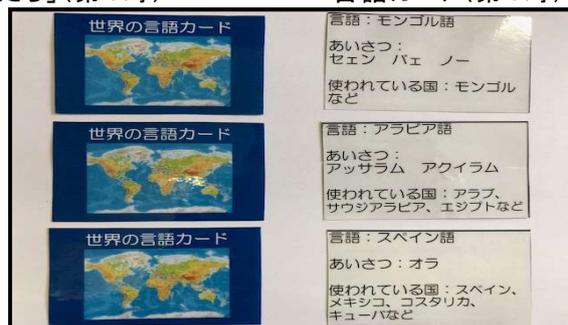
導入で、毎時間行っているベトナムクイズを行ったり、ベトナムの課題に関する写真を提示したりすることで、児童の関心・意欲を高めて授業を開始することができた。フォトランゲージでは、気付きの共有方法として付箋を用いた。単純に児童の「より多くの考えを書きたい」という意欲を引き出すことができたことや、考えを分類する方法としても有効であったと感じた。本時を通して、児童はベトナムの課題に気付くことはできたが、提示した写真が与える影響は大きく、児童のベトナムに対するマイナスイメージが強く残ってしまったことは残念であった。また、4年生にとってはやや難しい学習課題であり、自分たちの生活とかけ離れたベトナムの課題を、自分ごととして感じさせることができなかつたことも事実である。一部の児童の考えとして、自分の住んでいる日本や八王子とベトナムを比較して考えられたこと、既習の社会科「わたしたちのくらしと水」や、「ごみのしまつと再利用」と関連付けて課題や改善策を考えることができたことは大変良かった。これらの比較や関連付けて考えることが、学級全体へ広めていけるとさらに良かった。主活動のフォトランゲージを前時と同様の学習形態にしていたことは、児童にとってわかりやすく、円滑に授業をすすめる手助けとなった。

(3) 使用教材

・パワーポイント資料「世界がもし34人の4年2組だったら」(第1時)



・言語カード(第1時)



・パワーポイント資料「ベトナムってどんな国？」(第2時)

ベトナムはどんな国？

クイズ1 ベトナムの人口は？

①約90万人 ②約900万人

③約9000万人 ④約9億人

ヒント！日本の人口は1億27万人です。

正しくは9370万人。
世界の人口は76億人ですので、日本もベトナムも人口の多い国と言えます。



ベトナムはどんな国？

クイズ5 ベトナムでたくさん作っているのは？

①お米 (世界5位) ②グレープフルーツ (世界3位)

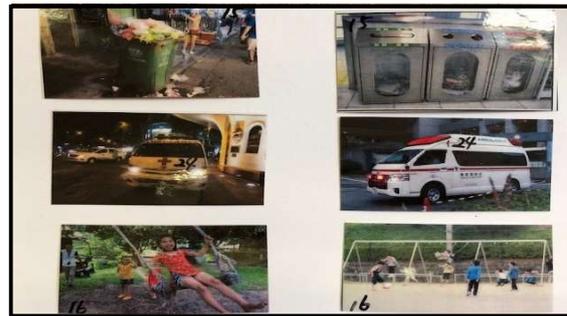
③コーヒー (世界2位) ④カシューナッツ (世界1位)

これらのものは、ベトナムで作られ、世界中に送られています。もしかしら、ベトナムで作られたものを一度は食べたことがあるかも？






・神経衰弱カード(第3時)



・フォトランゲージ写真資料(第4時)「バイクで混み合う道路」「汚染した川、散乱するごみ、垂れ下がった電線」



・Water Aid Japan・AC Japanの広告ポスター及びテレビCM(第5時) ・持続可能な開発目標SDGs(第6時～)

水を確保するために、10分おきに水を運ぶ必要がある。それは何時間もかかる。そしてその間に学校や仕事に遅刻する。子供たちは、一人でも水を運ぶ必要がない。すべての人に清潔な水を。WaterAid Japan ウォーターエイドジャパン

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標

- 貧困をなくそう
- 健康と福祉を
- すべての人に健康と福祉を
- 質の高い教育をみんなに
- ジェンダー平等を
- 安全な水とトイレを世界中に
- エネルギーをみんなに
- 働きがいも経済成長も
- 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 人や国の不平等をなくそう
- 日本向け持続可能なまちづくりを
- つくる責任 つかう責任
- 気候変動に具体的な対策を
- 海の豊かさを守ろう
- 陸の豊かさを守ろう
- 平和と公正をすべての人に
- パートナーシップで目標を達成しよう

(4) 参考資料等

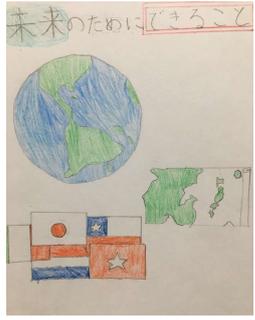
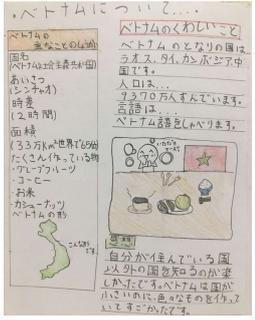
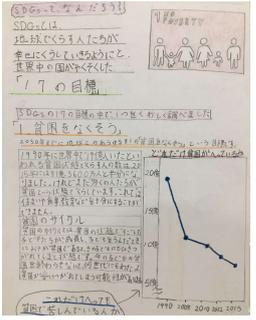
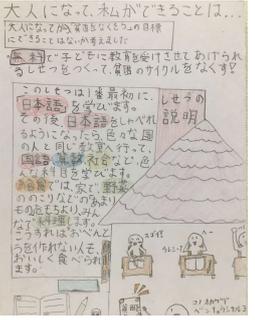
- ・『世界がもし100人の村だったら』池田香代子(2001)
- ・『ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら 第5版』開発教育協会(2016)
- ・『開発教育 基本アクティビティ集1』開発教育協会(2017)
- ・『知っていますか？SDGs』日本ユニセフ協会(2018)
- ・『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』一般社団法人 Think the Earth(2018)
- ・『SDGs 国連 世界を変えるための17の目標 2030年までのゴール』日能研教務部(2017)
- ・『ベトナムの小学生(アジアの小学生4)』河添恵子(2011)
- ・オンライン新聞「VIETJO ベトナムニュース」
- ・総合統計情報サイト「GLOBAL NOTE グローバルノート」<https://www.globalnote.jp>

7 単元を通した児童の反応/変化

<ワークシート記述>

- ・34人のうち、7人もえいようがなくて、死にそうな人もいることにびっくりしました。なぜなら、学校の友達は、みんな元気に遊んでいるからです。(第1時)
- ・知らない国について知ることが楽しかったです。たくさんものを作っていて、ベトナムはすごいなと思いました。今度ベトナムに行ってみたいです。(第2時)
- ・日本とベトナムはちがうところしかないと思っていたけど、同じところも見つけられました。もっと他の同じところやちがうところを見つけてみたいです。(第3時)
- ・バイクがいっぱいあってあぶないと思いました。ごみもたくさんあって、ベトナムはなやみがあることがわかりました。(第4時)
- ・もしわたしが文字を読めなかったら、本を読んだり文字を書いたりできないかもしれないので悲しいと思いました。カウエサちゃんが学校に通えないことがかわいそうです。(第5時)
- ・SDGsは世界を幸せにする目標だということがわかりました。SDGsを広めて、世界中が幸せになったらいいです。(第6・7時)

<児童作成リーフレット> (第8～10時)

P1 表紙	P2 ベトナムについて	P3 SDGsについて	P4 未来のためにできること
			

8 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

【成果】

- ・多くの児童が世界の国々の現状や課題に興味・関心をもち、意欲的に学習に取り組めた。クイズやカード・実物(ベトナムの帽子・3本のボトル)を用いてアクティビティを行ったことや、視覚的教材(ベトナム写真、ウォーターエイドジャパンポスター、ACジャパンCM映像、SDGs紹介動画等)を充実させたことは、児童の学習意欲を高めるために効果的で、分かりやすい授業づくりに繋がった。
- ・フォトランゲージを多く取り入れたことで、話し合いの中で児童が多くのことに気付き、考えを深めることができた。また、自身の生活と比較したり、既習事項と関連付けて考えたりできたことで、日本とベトナムの共通点や相違点、ベトナムの課題に気付くことができた。
- ・学習のまとめとして、「未来のために、自分にできることは何か」と考えたことにより、少しずつであるが、世界の課題を「自分ごと」として考えることができたように感じる。すぐにできそうなことから、大人になってほしいことなど、多様な考えが生まれ、発表会を通して学級全体で共有できたこともよかった。SDGsに取り組むことで、よりよい未来にしたいという考えが児童に生まれた。

【課題及び改善策】

- ・提示した写真の影響が大きく、児童にベトナムに対するマイナスイメージが強く残ってしまったこと。
→提示する写真の精選を行う。また、ベトナムの課題に気付かせるだけでなく、どの国にも課題があることを伝えていく。また、「かわいそう」などの感想が多く出てしまったが、このような課題があるからといって、ベトナムは不幸せだということに直結しないことなど、豊かさの本質に気付かせる工夫が必要である。
- ・SDGsの内容は4年生に理解がやや難しかった。⇒インターネットは情報量が多すぎるため、書籍を用いるなど、調べる手段の工夫を行う。小学生にとってSDGsの内容が理解しやすい資料を作成する。
- ・SDGsと日本との関連を感じさせられなかったこと⇒世界の国々に目がいきすぎてしまい、SDGsは「他の国々を改善していくもの」という考えが生まれてしまった。日本でもSDGsの多くの項目は達成できていないことや、様々な取り組みがあることを理解させる必要がある。

9 教師海外研修に参加して

「新しいことに挑戦したい」と意気込んで参加した教師海外研修であったが、本当に多くのことを学び、これまでにない貴重な経験をすることができた。私は知識や経験も浅くまだまだ未熟であるが、海外派遣や授業実践を通して、「国際理解とは何も難しいことでない」と思えるようになったことは大きな成果である。人と人が理解し支え合って生きていくように、国と国が理解し支え合っていくことが必要であると単純に考えることができた。子供たちにとっても、今回の授業での学びが、多様な見方・考え方を養い、いずれは自分の身近な人との関わりや、自分自身への気付きにも繋がっていったら幸いである。また、本研修に参加し、「一人の教員として何ができるのか」「一人の地球に住む者として何ができるのか」と何度も考えるようになった。答えはそう簡単には見つからないが、今の自分にできることは、国際理解教育を通して、1人でも多くの児童と一緒に「よりよい未来づくり」を考えていくことであると思う。本研修での貴重な経験を財産とし、今後も絶えず学び、さらなる挑戦をしていきたい。